



森と林の自然から

2019  
第49号

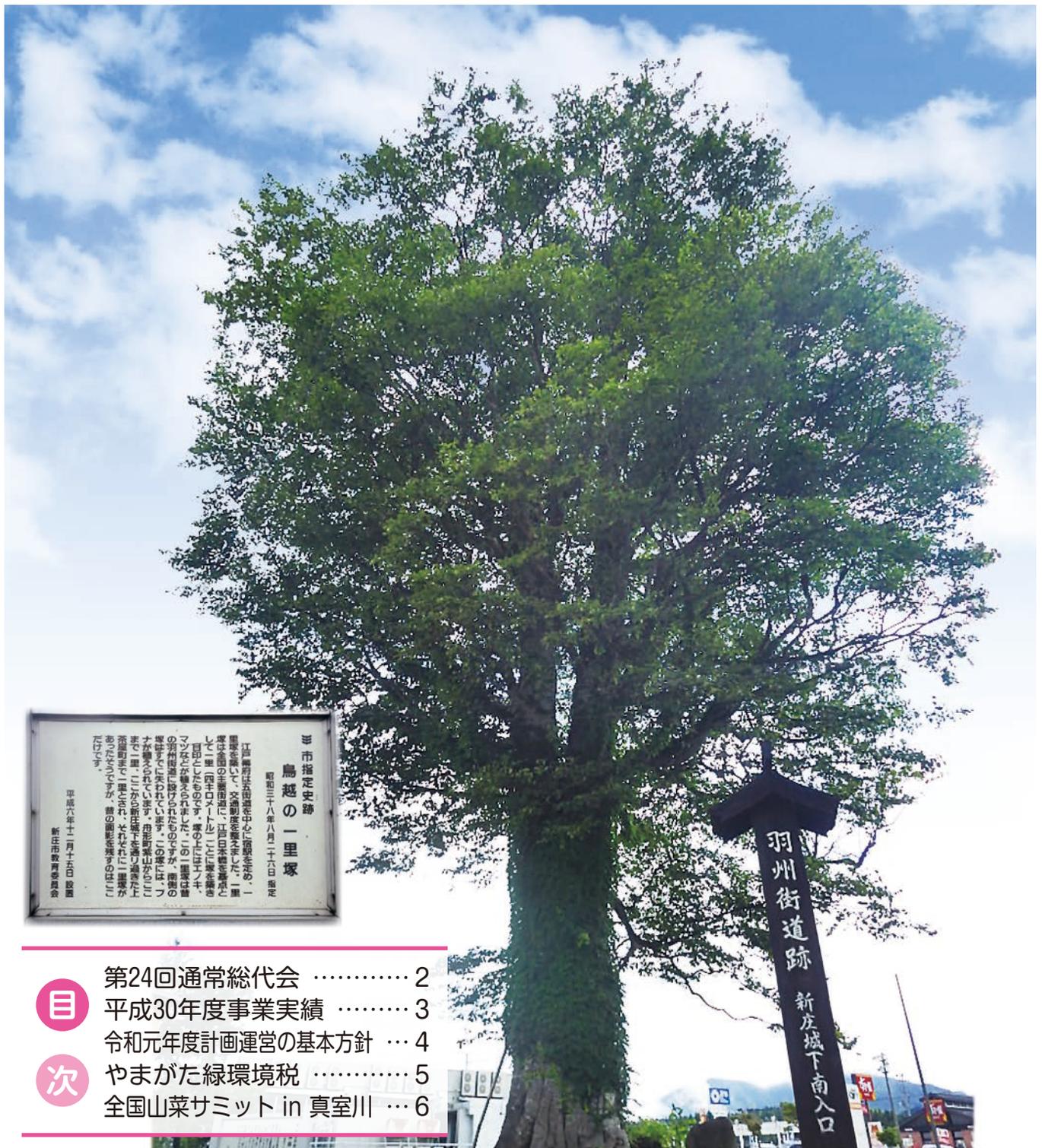


〈編集・発行〉

最上広域森林組合

事務所：山形県最上郡真室川町大字新町字下荒川270の1

# やまびこ だより



市指定史跡  
鳥越の一里塚

昭和三十三年八月二十六日指定

江戸幕府は五街道を中心に宿願を定め、一里塚を築いて、交通制を敷きました。一里塚は国の主要街道に、江戸日本橋を基点として一里（四半マイル）ごとに塚を築き、印としたものです。塚の上には「エノキ」マツなどが植えられました。この一里塚は鳥越の羽州街道に築かれたもので、この塚には昔の塚はずべて失われています。この塚には、フナが植えられています。鳥形野山からこの塚まで一里、この新庄城下を流り通った上流部まで一里とされ、それぞれ一里塚が築かれましたが、この塚を築くのは江戸時代初期です。

平成六年十一月十五日設置  
新庄市教育委員会

羽州街道跡  
新庄城下南入口

目次

- 第24回通常総代会 …… 2
- 平成30年度事業実績 …… 3
- 令和元年度計画運営の基本方針 …… 4
- やまがた緑環境税 …… 5
- 全国山菜サミット in 真室川 …… 6

# 第24回通常総代会



第二十四回通常総代会を五月三十日(木)新庄市民文化会館小ホールにおいて開催いたしました。

来賓に、最上総合支庁(代)産業経済部森林整備課長 堀米英明氏、山形森林管理署最上支署長(代)企画官 五十嵐伸哉氏、山形県森林組合連合会代表理事 会長(代)代表理事常務 渡邊真司氏、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林整備センター山形水源林整備事務所長 青木勇氏、公益財団法人山形県林業公社理事長(代)専務理事 安達喜代美氏、農林中央金庫山形支店長(代)副支店長 上田哲也氏、農林中央金庫融資主任 佐藤亮氏をお招きしました。

総代数二百名、現在総代数一九一名、本人出席五三名、書面議決書一七一名、委任状三名、合計一七七名の出席を得て開催されました。

議長には、高橋忠助氏(真室川地区)を選任し、提出された全七議案すべて原案通り承認可決されました。

## 議決された議案は次の通りです

### 第一号議案

平成三十年度事業報告書、貸借対照表、損益計算書、剰余金処分案、注記表及び附属明細書承認の件

### 第二号議案

令和元年度事業計画設定の件

### 第三号議案

令和元年度借入金の最高限度額決定の件

### 第四号議案

令和元年度一組員に対する貸付金並びに債務保証の最高限度額決定の件

### 第五号議案

令和元年度役員報酬額の決定の件

### 第六号議案

令和元年度余裕金の預け入れ先の決定の件

### 第七号議案

造林補助金取扱手数料決定の件

平成三十年度 決算の概要

平成最後の年となった三十年度では、豪雨災害や土砂災害等の自然災害が全国各地で発生した年となりました。西日本では記録的な豪雨そして北海道では胆振地方を震源とする地震が発生し、また、八月には最上地域を襲った豪雨災害が発生しました。各所で大きな被害をもたらした集中豪雨では、床上・床下浸水による建物被害、道路の損壊や一部の断水、農地や林道などの決壊被害が多数発生しました。このような被害を受け改めて、森林の持つ公益的機能の重要性そして森林整備の必要性を痛感いたしました。

そのような中で、森林所有者の経営意識の低下や、所有者不明森林の増加が懸念されており、林業の成長産業化と森林資源の適切な管理を推進するため、新たな森林管理システムとして、森林所有者自らが経営管理できない森林の管理を市町村や意欲と能力のある林業事業者によって持続的に手入れを行う措置を講じることを内容とする森林経営管理法が成立しました。また、税制改正の大綱において、森林環境税及び森林環境譲与税が創設され、いよいよ平成三十一年四月からスタートいたします。

また、山形県再造林推進機構が具体的に基金の造成と経費の補助をスタートさせております。県内では特に、ここ最上地方に大型集成材工場や既存の大型製材工場そしてバイオマス発電所が本格稼働しており木材の需要が高まりつつあります。これに伴い木材の安定供給の意味合いからも皆伐後の再造林が大きな課題となっております。しかしながら、材価の低迷などによって再造林費用が捻出できない状況が続いておりますが、森林所有者が再造林に係る経費をゼロにするため民間企業が丸となり再造林推進機構を立ち上げました。民間企業が会員となり同機構と協定を締結し原木生産者、流通者、購入者から1㎡あたり200円の協力を徴収し、再造林経費の10%造林面積1ha当り10万円を上限として助成するものであります。つまり再造林経費の負担割合は国費六八%緑環境税一二%県費一〇%再造林推進基金一〇%の負担を行い所有者負担ゼロにして一〇〇%の補助率で再造林が実施できるよう支援することとなりました。当組合としても、補助制度の必須条件である森林経営計画の策定に取り組み、組合員の意向と利益還元を目指し皆伐、間伐、再造林を推進してまいります。

今年度における事業の総収益は、三七三、九八七千円で事業総利益は一三三、七五五千円、税引前当期利益が一〇、一四四千円を計上することとなり、当期剰余金は七、〇一四千円で前年対比では総利益が上回る結果となり、未処分剰余金は一五、八五〇千円計上することができました。ここに、組合員各位並びに国・県・市町村・関係機関等のご指導・ご協力に心から感謝申し上げます。

損益計算書

平成30年4月1日～平成31年3月31日 (単位：円)

科目	小計	合計	事業区分業			
			計	指	導	販
I 事業総損益						
1 事業総収益	373,987,610		373,987,610	0	150,274,635	223,712,975
2 事業総費用	240,232,384		240,232,384	812,278	108,477,733	130,942,373
事業総利益		133,755,226	133,755,226	-812,278	41,796,902	92,770,602
II 事業損益						
1 人件費	95,698,034		95,698,034	5,316,557	31,101,861	59,279,616
2 旅費・交通費	410,704		410,704	22,817	133,479	254,408
3 事務費	3,065,129		3,065,129	170,285	996,167	1,898,677
4 業務費	5,663,032		5,663,032	314,613	1,840,485	3,507,934
5 諸税負担金	1,525,390		1,525,390	84,744	495,752	944,894
6 施設費	16,877,390		16,877,390	937,633	5,485,152	10,454,605
7 雑費	897,263		897,263	49,848	291,610	555,805
事業管理費計		124,136,942	124,136,942	6,896,497	40,344,506	76,895,939
事業利益		9,618,284	9,618,284	-7,708,775	1,452,396	15,874,663
III 経常損益						
1 事業外収益	1,487,024					
2 事業外費用	1,003,436					
事業外損益		483,588				
経常利益		10,101,872				
IV 特別損益						
1 特別利益	12,900					
2 特別損失						
特別損益		12,900				
税引前当期利益		10,114,772				
法人税・住民税及び事業税		3,100,000				
当期剰余金		7,014,772				
前期繰越剰余金		8,835,401				
当期末処分剰余金		15,850,173				



# 令和元年度 運営の基本方針

- 木材の安定供給体制を構築し、成熟期を迎えた森林資源の利用を促進しながら間伐とあわせて皆伐再造林を進め、適正な森林管理・齢級配分に誘導していくと共に、素材生産量の増加を図り、市町村整備計画に沿った事業を展開します。

- 素材生産や森林整備の施策を実施するため組合員等との合意形成を図り、森林経営計画を策定する。また、組合員が所有する山林を把握することで、組合員からの要望に対する確に助言・提案ができる体制を確立し、組合員の森林経営を効率的かつ安定的なものにします。

- 最上地域では、大型集成材工場や木質バイオマス発電所として既存の大型製材工場が稼働し、木材需要が高まるなかで当組合では、森林資源の循環利用のサイクルを構築するために事業の効率化に向けて路網整備をはじめ高性能林業機械と補助事業を活用した施策を実施する。また、A材からD材まで余すことなく造材・生産することで組合の強みである系統のスケールメリットを活かしながら有利な販売を可能にし、組合員の利益向上を図ります。

# 職員人事

(令和元年七月現在)

## 総務課

- 総務課長 齋藤 慎士
- 総務課会計主査 杉原 千恵
- 総務課係兼販売会計係 佐藤いずみ
- 総務課会計係 越後 麻美
- 総務課係 笠原 雄平
- 総務課係(新採) 石川真理亜

## 森林整備課

- 森林整備課長 高橋 雄一
- 森林整備課長補佐 松澤 強
- 森林整備課主査 渡部 勝義
- 森林整備課係長 井上 敏行
- 森林整備課係 沓澤 重泰
- 森林整備課係(兼)販売係 奥山 宏太
- 森林整備課会計係(新採) 荒木 順子

## 林産振興課

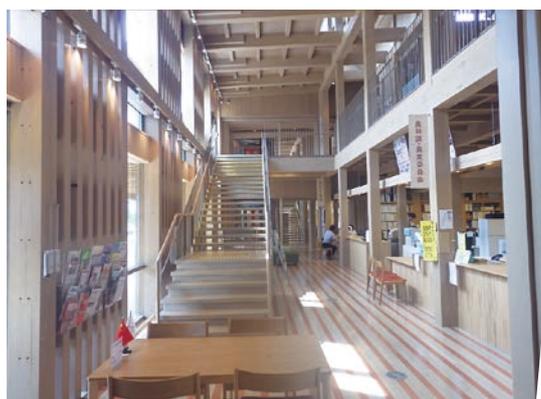
- 林産振興課長 沓澤 卓美
- 林産振興課会計係長 森 恵子
- 林産振興課係長 鈴木 健一
- 林産振興課係 佐藤 徹
- 林産振興課加工工場係 阿部 和也
- 林産振興課加工工場会計係 佐藤 和子
- 林産振興課係 藤田 翼
- 林産振興課係(新採) 庄司 智輝

# 白鷹町新庁舎 まちづくり複合施設

# 視察について

六月二十一日に二階建て木造施設の白鷹町まちづくり複合施設を視察しました。

まちづくり複合施設の特徴として構造材から仕上げまで地元産材・白鷹産材を積極的に活用した施設であり木材使用量は約一、七二〇㎡のうち町産材約七五%が活用されており、施設には町役場をはじめ、町民活動の拠点となる町民ラウンジ、ミーティングスペース、図書館が併設されています。



# やまがた緑環境税

## 県民みんなで支える森づくり

森林には木材を生産する以外に水資源を涵養し、洪水や土砂災害を防ぐなどの様々な機能があります。最近では、地球温暖化防止のための二酸化炭素の吸収源としての役割などが注目されています。こうした森林の働きを【森林の公益的機能】と呼んでおり、こうした公益的機能は森林が常に活力のある状態に保たれることで発揮されてきました。

しかし、一度森林が荒れてしまうとその再生には大変長い月日がかかることから、手遅れになる前に、県では平成19年度より「やまがた緑環境税」を導入し、森林の持つ働きを守っております。

当組合でやまがた緑環境税事業を活用し施業した森林です。

間伐



着工前



完成

作業道



着工前



完成

PR看板



### 上記の事業内容

#### ■ 荒廃森林緊急整備事業

- 針葉樹維持型…手入れが不十分で荒廃のおそれがある人工林の整備として、不良木の間伐及びこれに必要な森林作業道の改良・開設等を実施しました。

2019  
**全国山菜サミット**  
 in 真室川  
 開催  
 催



五月三十一日～六月一日の二日間、二〇一九全国山菜サミット in 真室川が開催されました。サミットでは全国各地で山菜振興に取り組んで関係者が情報交換・技術交流を行い、山菜文化の展望を図る場とともに、一般の方にも山菜の魅力を知ってもらう事を目的に開催しました。

また、きのこ料理に詳しい木田マリ氏による基調講演や山菜創作料理そして伝統料理の試食会も開かれ多くの来場者で賑わいました。

当組合では、山菜直売所のブースを設け、たけのこ・ワラビ・ミス等を販売いたしました



## 特産物加工場より

★委託加工では、一年を通して生の小豆、ささぎ豆、黒豆を缶詰に出来ます。★

- ・各豆 1 升に対して砂糖 2 kg をご一緒にお持ち下さい。
- ・ 1 缶 270 円 生豆 1 升につき約 13 ～ 15 缶 3,500 円から 3,800 円程度



月曜日～木曜日 は 午後 5 時 まで  
 金曜日 は 午 前 中 まで 受付 しております



★購買品では、長靴・地下足袋・笹刈刃・鉈・鋸・鎌等の林業資材を中心に★  
 多くの商品を取り扱っております。

当店で取り扱っていない林業関係の商品もご相談頂ければ取り寄せ販売も可能です。  
 ご来店を心よりお待ちしております。

### 組合員の皆様へ

住所や氏名に変更が生じた際は、  
 手続きが必要となりますので、  
 当組合までご連絡下さい。

### 最上広域森林組合

TEL 0233(62)2102

FAX 0233(62)2953

メールアドレス soumu@mogami-morikumi.or.jp  
 HPアドレス mogami-morikumi.or.jp